

- 問1 弥生時代の遺跡から見つかる、はしごを使って出入りする形式の建築物について、この建物が普及した背景として最もふさわしい歴史的な出来事はどれですか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。 | 2. 仏教が伝来し、寺院の建築様式として床を高く作る技術が大陸から導入されたこと。 | 3. 大規模な戦争が絶えなかったため、敵を見張りやすくするために全ての建物を高く作ったこと。 | 4. 気候の寒冷化が進んだため、人々が地面の冷気から逃れるために生活拠点を高い場所へ移したこと。 |
|--|---|--|--|
- 問2 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏に使いを送り「朝貢」を行った政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため | 2. 中国の優れた文字（漢字）を学び、律令制度に基づいた中央集権国家をいち早く形成するため | 3. 中国から仏教を公式に導入することで、宗教の力を用いて争いの絶えない国内を鎮めるため | 4. 中国の進んだ稲作技術を独占し、食料生産を安定させることで人口を増やすため |
|--|---|--|---|
- 問3 弥生時代の文化を象徴する遺物である「銅鐸」について、その使用目的や出土傾向を正しく説明しているものはどれか。 (2024年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 最新の農耕技術を伝えるための工具として、兵庫県や島根県などの沿岸部のみで限定的に使用された。 | 2. 実際の戦いや狩猟で使用するための実戦的な武器として、東日本を中心に広く普及した。 | 3. 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。 | 4. 縄文時代から続く伝統的な風習において、死者を埋葬する際に手足に装着する装身具として使われた。 |
|---|---|--|---|
- 問4 弥生時代、稲作の普及によって余剰生産物が生まれると、富を蓄えた有力者が現れ、各地に小規模な政治集団である「国」が形成されました。当時の倭（日本）の有力な王は、中国の王朝から自らの地位を正式に認められることで、周辺諸国に対する権威を高めようとしてしました。西暦57年に、倭の「奴国」の王が中国の後漢の皇帝から授かった、その地位を証明するための品物として正しいものを選びなさい。 (2018年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|------------------|-------------------|----------|
| 1. 三角縁神獣鏡 | 2. 稲荷山古墳から出土した鉄剣 | 3. 「漢委奴国王」と刻まれた金印 | 4. 仏像や経典 |
|-----------|------------------|-------------------|----------|
- 問5 弥生時代から江戸時代までの外交上の主なできごとを整理した記録において、3世紀に邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった目的や背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かることで、北九州の奴国を中心とした小国の連合体を統一し、女王の地位を証明するため。 | 2. 朝鮮半島南部での鉄資源の確保を目的として、中国の王朝と軍事同盟を結び、高句麗や百済に対抗するため。 | 3. 先進的な仏教文化や律令制度を日本に導入し、天皇を中心とした中央集権国家の基盤を早急に固めるため。 | 4. 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸国との関係を有利に進めるため。 |
|---|--|---|--|
- 問6 九州北部の福岡県付近で発見された弥生土器に象徴される時代には、大陸から青銅器の技術が伝わりました。この青銅器の一つである「銅鐸」は、日本において主にどのような目的で用いられたと考えられていますか。 (2016年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------|-------------------------------|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 豊作などを祈るための、祭りの道具 | 2. 武士が戦場で敵を攻撃するために使用した、実戦用の武器 | 3. 脱穀を行う際に使用する、千歯ごきなどの農具 | 4. 大陸との交易において支払いに使われた、和同開珎などの貨幣 |
|---------------------|-------------------------------|--------------------------|---------------------------------|
- 問7 弥生時代の集落において、収穫した稲を保存するために用いられた建築物の構造と、その目的について説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。 | 2. 建物の周囲に石垣を高く積み上げ、収穫した作物を敵対する他の集落による略奪から守るための防衛施設とした。 | 3. 建物の周りに深い堀を巡らせ、収穫物が雨水によって浸水したり流失したりするのを防ぐ排水機能を重視した。 | 4. 地面を円形や方形に掘り下げて床とし、防寒性を高めることで家族が共同で生活するための居住空間とした。 |
|--|--|---|--|
- 問8 弥生時代に邪馬台国の卑弥呼が、中国の魏に使いを送った政治的な理由として、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものを選択してください。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 日本列島に迫っていた魏の軍事的侵攻を回避するため、多額の貢ぎ物を持参して講和を結ぶため。 | 2. 鉄製農具の使用を全国に普及させるため、魏から大量の鉄資源を安価に輸入する独占的な貿易ルートを確認するため。 | 3. 律令国家の仕組みを学ぶために、魏の進んだ法制度や官僚機構を日本に導入して中央集権化を図るため。 | 4. 「倭国大乱」と呼ばれる国内の激しい争いを鎮め、魏の皇帝から称号を得ることで国内における統治の正当性を示すため。 |
|---|--|--|--|
- 問9 1世紀に倭の奴国の王が中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授かった背景として、当時の小国の王たちの目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---------------------------------------|---|
| 1. 遣隋使や遣唐使のように、進んだ律令制度を学び取り、日本独自の憲法を制定するため。 | 2. 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。 | 3. 仏教などの新しい宗教を中国から導入し、国民の精神的な団結を図るため。 | 4. 中国からの軍事支援を直接受け、近隣諸国を武力で一気に統一しようと考えたため。 |
|---|--|---------------------------------------|---|
- 問10 弥生時代の遺跡から出土する銅剣や銅鐸（どうたく）などの青銅器について、日本における当時の主な使用目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|--|---------------------------------------|
| 1. 木を切り倒したり土を掘り起こしたりするための農具として使われた | 2. 戦場において敵を攻撃したり身を守ったりする実戦用の武器として使われた | 3. 大陸との交易において支払いに用いられる、価値の基準となる貨幣として使われた | 4. 集落の祭祀（さいし）や儀式において用いられる祭りの道具として使われた |
|------------------------------------|---------------------------------------|--|---------------------------------------|
- 問11 弥生時代に作られた青銅器の一種で、釣鐘のような形をしており、表面に流水紋や当時の狩猟・農耕の様子が描かれていることがある、稲作の祭りなどに使われたとされる遺物を何というか名称を答えなさい。 (2020年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 勾玉 | 2. 銅鏡 | 3. 埴輪 | 4. 銅鐸 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問12 古代の倭（日本）の王や諸国の首長が、中国の皇帝へ貢物を送った「朝貢外交」の主な目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 中国にある高度な仏教建築の技術を独占的に導入し、日本国内に巨大な寺院を建立するため | 2. 中国の皇帝から自らの地位や権威を認めてもらい、国内や周辺諸国に対する統治の正当性を得るため | 3. 中国の王朝を軍事的に支配下に置き、その領土を大陸側へ広げるための足がかりにするため | 4. 中国大陸での戦乱を鎮めるために、日本の強力な軍勢力を提供して外交上の恩を売るため |
|--|--|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。	高床倉庫の普及は、弥生時代の最大の特徴である稲作（水田稲作）の普及と密接に関連しています。縄文時代の狩猟・採集中心の生活とは異なり、稲作は計画的な生産と「余剰生産物」の貯蔵を可能にしました。この「蓄え」としての米をネズミや湿気から守るために、高床倉庫という特殊な建築様式が発達したのです。この貯蔵の有無は、のちに集団内での貧富の差や、土地や水を巡る戦いへとつながる社会構造の変化の出発点となりました。
問2	答え 1 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため	当時の日本（倭）は多くの小国が争っている状態でしたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合をまとめ、中国の強大な王朝である魏に朝貢しました。魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印を授かることで、中国という後ろ盾があることを他の国々に見せつけ、国内の統治を有利に進めようとする外交上の狙いがありました。
問3	答え 3 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。	青銅器はもともと大陸では武器や工具として使われていたが、日本に伝わると祭祀用の道具（祭器）として大型化・薄肉化した。銅鐸はその代表例であり、出土数の統計においても兵庫県、島根県、徳島県に次いで、滋賀県や和歌山県といった近畿圏で多く見つかったことが特徴である。
問4	答え 3 「漢委奴国王」と刻まれた金印	稲作が広まった弥生時代には、食料の蓄えや土地を巡って「争い」が起きようになり、集団を統合するリーダー、つまり「王」が現れました。当時の中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、倭の奴国の王が後漢の光武帝に使いを送り、金印を授かったことが記されています。この金印は江戸時代に現在の福岡県（志賀島）で発見されており、当時の日本が中国の王朝と外交関係を持っていたことを裏付ける重要な資料です。
問5	答え 4 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸国との関係を有利に進めるため。	当時の倭（日本）では多くの小国が争っていましたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合体をまとめるため、中国の「魏」という大国の威光を利用しました。中国の皇帝から正式に「王」としての称号を授かることは、国内における支配の正当性を高める強力な武器となりました。1世紀の「漢委奴国王」の金印（後漢へ派遣）や、後の時代の仏教伝来、朝鮮半島への出兵とは時代や背景が異なる点を見極める必要があります。
問6	答え 1 豊作などを祈るための、祭りの道具	弥生時代に大陸から伝わった青銅器は、銅とスズの合金で作られていました。当初は武器としての形を持っていましたが、日本では次第に大型化・薄型化し、実際に使う武器としてはなく、集落の豊作や繁栄を祈るための祭りや儀式の道具（祭祀具）として発展しました。銅鐸は特に近畿地方を中心に多く発見されています。
問7	答え 1 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。	弥生時代に本格的な稲作が始まると、秋に収穫した米を翌年の春まで保存するなどの長期間の貯蔵が必要になりました。高床倉庫は、床を高くすることで地面からの湿気が伝わるのを防ぎ、米が腐るのを抑える工夫がなされています。また、柱の上の部分には「ねずみ返し」と呼ばれる板が取り付けられ、食料を食い荒らすネズミの侵入を防いでいました。選択肢にある地面を掘り下げる建築物は竪穴住居であり、主に居住用として使われていたものです。
問8	答え 4 「倭国大乱」と呼ばれる国内の激しい争いを鎮め、魏の皇帝から称号を得ることで国内における統治の正当性を示すため。	2世紀後半の日本は「倭国大乱」と呼ばれる激しい内乱状態にありました。これを収めるために共立されたのが女王卑弥呼です。彼女が魏に使いを送った主な目的は、中国という当時の東アジアの超大国から「親魏倭王」という称号を授かることで、国内の他の勢力に対し、自分が正当な支配者であることを誇示することにあります。授かった銅鏡などの宝物も、その権威を裏付ける道具として利用されました。なお、律令制度の導入は飛鳥時代以降の課題であり、この時期の目的ではありません。
問9	答え 2 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立しており、奴国のような小国の王は、強大な勢力を持つ中国（後漢）の皇帝に朝貢（貢物を届けること）して「臣下」としての形をとることで、自らの支配の正当性や地位を国際的に裏付けてもらおうとしました。福岡県の志賀島で見つかった金印は、このような当時の国際関係（冊封体制）の実態を象徴する資料です。
問10	答え 4 集落の祭祀（さいし）や儀式において用いられる祭りの道具として使われた	大陸から日本列島へ伝わった青銅器は、その多くが実用性を超えて大型化したり、非常に薄く作られたりする傾向がありました。これは、実際に物を切る・突くといった武器としての用途よりも、集落の豊作を祈る儀式や、共同体の団結を確認するための祭事において、富や権威を象徴する「祭器（さいき）」として重宝されたことを示しています。
問11	答え 4 銅鐸	大陸から伝わった金属器の技術により、弥生時代には青銅器や鉄器が作られるようになりました。銅鐸は近畿地方を中心に分布しており、初期のものは音を鳴らすための楽器のような役割でしたが、次第に大型化し、稲作の豊作を祈る祭祀（祭り）のための道具として用いられるようになったと考えられています。
問12	答え 2 中国の皇帝から自らの地位や権威を認めてもらい、国内や周辺諸国に対する統治の正当性を得るため	古代の東アジアでは、中国の皇帝を中心とした国際秩序が形成されていました。倭の王たちは、圧倒的な力を持つ中国の皇帝に貢物を送り（朝貢）、臣下としての称号を受けることで、自分が正当な支配者であることを国内外に示す材料としました。